



門真市イメージキャラクター
ガラスケ



広報

かどま

CITY OF KADOMA

平成25年
(2013)

9

No.
1144

月号

(毎月1日発行)

- アンケート調査結果を公開 2
- 秋の全国交通安全運動 3
- 障がい者健診予約開始 6
- 市制施行50周年記念コンサート出演者募集 9
- かどまの民話 11

門真市役所 / 〒571-8585 門真市中町1番1号 ☎06(6902)1231 ☎072(885)1231
 編集と発行 / 総合政策部秘書広報課 ホームページ <http://www.city.kadoma.osaka.jp/>
 配布に関する問い合わせ ☎0120(934)571

人口12万7859人(男6万3319人、女6万4540人) 世帯数6万828世帯
 転入346人 転出410人 出生83人 死亡92人
 (25年8月1日現在 転入・出などは25年7月中の数字)



帆などの製作作業をする奥野さん

手作りへのこだわり

太古の船は原木から掘り出したのが始まりであったことから、それに近い製法で船を製造するというこだわりがあります。

角材に上からの平面図および横からの平面図で概観をつ

44年 帆船を作り続けて

奥野帆船工芸の奥野禮三氏は大阪万博の翌年に門真市で創業し、現在まで40年以上帆船を作り続けています。

これまでも、学校法人同志社の依頼により、同大の創立130周年記念として、創始者

フラッシュ
門真の
ものづくり 21

木製帆船模型を知っていますか。歴史に残る帆船のダイナミックな存在感を現代に模型として蘇らせる、そんな企業が門真市にあります。

今回は学校の教科書でも、門真市の小さな企業代表として掲載されている奥野帆船工芸を紹介します。



完成した木造帆船模型

見る者を魅了する 帆船模型

奥野帆船工芸

(三ツ島1-34-17)

ものづくりの想いを次世代へ

毎年、小学校への出張講義を行い、帆船を実際に持参し、ものづくりに取り組む想い、楽しさなどを子どもたちに伝えていきます。

また、創業当初の苦しい時期から、さまざまな人に支えられ、現在まで帆船製造を続けていくことができた経験をもとに、道徳の大切さも伝えてきました。

今では帆船を見た子どもたちからの手紙が宝物。「子どもたちには、ものづくりを通じて人と人との繋がりの大切さを伝えたい」と奥野夫妻。帆船作りへの情熱、地域貢献への思いは新たな世代にしっかりと根付いていくことを目指す。

かみ、舟の形を削りだしていき、さらに内部をある程度削りだしたところで角材を張り合わせ、全体を削りだして形作ります。また、モデルによっては甲板部分も実際の船と同じように木の板を張り合わせ、木ねじで留めています。仕上げの塗装やロープ張りなどは妻の菊江さんが行っています。

甲板の木、帆、ロープなども含めてすべてが手作りであり、実に、100〜200の工程を40日以上かけて作りあげます。



(左から) 奥野禮三さん、奥野菊江さん